寄せ太鼓

北九州市立長崎街道
木屋瀬宿記念館
運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬
三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

今年もやります 湧かせてみせます

「こやのせ座 能（のう）」

3月3日(土) 午後2時開演

「こやのせ座」三月の恒例行事第五回「こやのせ座 能」を開催致します。

今年の演目は仕舞が〔井筒〕〔船弁慶〕　能が〔車僧〕ですが　初めてご鑑賞戴く方やお子様にも解り易い様　観世流能楽師(シテ方)森本哲郎氏による解説もございますのでお楽しみ下さい。

又　次代を担う小・中学生に日本の古典芸能「能楽」を体験させ日本の歴史・文化に対する理解を深める事を目的として「親子お能教室」(無料)も開催致しますので奮ってのご応募をお待ちして居ります。

※午前11時よりこやのせ座にて開催・定員50人・**電話申込受付中**

親子お能教室の様子

尚　当日には「こやのせ座」ボランティアによるバザー(うどん・ソバ・カレーライス・コーヒーなど)の用意もございますのでご利用の程　宜しくお願い申し上げます。

観覧料●一般三〇〇〇円。●学生(高校生以下)一〇〇〇円。(当日は各五〇〇円増)　※入場は小学生以上。チケットのお求めは、木屋瀬宿記念館、ローソンチケット。お問い合せ・申し込みは☎〇九三ー六一九ー一一一四九へ。

能「車僧（くるまそう）」ストーリー

車僧(法力によって動く車に乗っているので、そう呼ばれている)が、嵯峨野に着き雪景色を眺めていると、愛宕山の天狗　太郎坊が人間(山伏)の姿で現れ、禅問答をしかけてくる。太郎坊は車僧に太郎坊の自宅に入るように勧め、黒雲に乗って姿を消す。やがて太郎坊は天狗の姿で現れ、法力での争いをしかけるが、車僧は微動だにしない。天狗は車僧の力に恐れをなし、消え失せる。

人の波が押し寄せた!!

第14回 筑前木屋瀬宿場まつり

過去最高かも…

”木屋瀬の歴史と文化を活かした町づくり”の趣旨のもと始められた本年で14回　今では町並み資料館やスタンプラリーに加え「宿場踊り」を中心として筑前各地の伝承盆踊りが集結する「伝承盆踊りの祭典」と発展を遂げ　他に類無き特性を活かした方向性と全て木屋瀬住民による企画・運営と云う実質内容を以って　名実共に”木屋瀬の歴史と文化を活かした町づくり”の根幹を担う一大行事へと育って参りました事を慶びと致します。

又　一昨年来　ポンポン菓子やミニSL・ミニ動物園など子供向けの企画やイベント会場を従来の旧街道筋と須賀神社のみに留まらず須賀公園にてフリー・マーケットを開催するなど　賑いを増す為の新しい試みにも取組んで居りますが　今回は前代未聞の新企画として遠賀川河川敷でヘリコプター木屋瀬遊覧飛行を挙行　「まつり」の庭は更に大きく大空へと広がりました。

最後に　今回は天候にも恵まれ過去最大とも云える人出で大盛況のうちに挙行出来ましたことをご参画・ご協力戴きました住民の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

第14回筑前木屋瀬宿場まつり
実行委員会
企画委員長　藤　嘉量

木屋瀬宿写真館

こやのせの様々な行事を集めてみました。

年間を通していろいろな行事が行われています

昨年の宿場まつりの様子

綱引きも仮装大会もやりました

まつりや町並みを上から見てみようという初の試み

夏には盆踊り　毎年木屋瀬宿記念館広場から始まり、初盆家を二手に分かれて踊ります

毎年恒例　5月の芸術祭の一場面

こやのせの男たちの一番熱い日　祇園

毎年子供達が楽しみにしているたなばたまつり
木屋瀬宿記念館広場は子供達の願い事で一杯になります

子供えびす　昔の元服の意味をもつ頭(かしら)この頃からいっそう逞しくなる

熊本城で木屋瀬宿をPRして来ました。

「第11回くまもとお城まつり」の最終日に当たる昨年10月21日(土)に、前年に引き続き、熊本城竹の丸で木屋瀬宿のキャンペーンを行いました。前回は、木屋瀬宿場踊振興保存会の人達がステージで宿場踊を披露しましたが、今回は、職員3人で会場に向かいました。毎年北九州市観光課が、このお城まつりのときに、北九州市のPRをしていますが、記念館と運営協議会では、この北九州市観光課のPRに合わせて、11月5日(日)に開催する木屋瀬宿場まつりをメインに、木屋瀬宿及び木屋瀬宿記念館のPRを行いました。

熊本城竹の丸の会場では天守閣側にステージ、お堀側にテントが設置されていました。ちょうど、ステージの真向いに当たる所に北九州市のテントが設置され、テントの中では、北九州市観光パネル展が開催されていました。北九州市観光課の職員と一緒に、観光パネルを観覧しているテント内の人や、テントの前を通行する人達に、宿場まつりのチラシや、木屋瀬宿記念館のリーフレット、世界びっくりそろばん展のチラシ、木屋瀬宿のマップを配布しました。また、テントの入口で宿場まつりのビデオを上映しました。わずか4時間程でしたが、前に「長崎街道筑前木驛」、背中に「こやのせ座」の文字の入った法被を羽織って通行する人々に声をかけ、資料を手渡しました。

木屋瀬宿の認知度は、まだまだの観がありましたが、以前北九州市に住んだことのある人が、声をかけてくれることもありました。

このPR活動の継続が、PR効果となって木屋瀬宿の知名度アップにつながると思っています。

熊本城

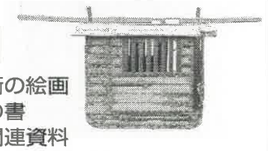
長崎街道木屋瀬宿記念館　副館長　柴田

みちの郷土史料館第25回企画展

「収蔵庫蔵出し展 2007」のお知らせ

平成19年1月27日(土)～3月4日(日)

普段は収蔵庫で保管している数千点の収蔵品から厳選してご紹介します。木屋瀬郷土資料館で展示されていた懐かしの品物に再会できるかも…。初公開の資料もございますので、この機会をお見逃しなく！



主な展示品

- 麻生東谷や山本作兵衛の絵画
- 伊馬春部や高田竹山の書
- 第一回日本国勢調査関連資料
- 昔の教科書、古書籍、陶磁器、簪類、旧硬貨・旧紙幣　ほか

篆刻に魅了

游於藝（芸に遊ぶ）

印を製作する時は、まず印稿作りから始めます。この際に選文といって、色んな書物より言葉や文を選び、その字形のバランスや構成などを考えます。それを実際に紙に何枚も書いてみます。いろいろと思い悩みますが、こんな風に作ろうというのを決めます。

この印稿を基に刻するのですが、これがまた刀の使い方、彫り方によって表情が変わってくるのです。印稿通りのものを刀で表現するには経験を重ねるしかありません。

然かしながら、この過程の中で文字（もんじ）にこだわることにより、ほんの少しのことで表情が変わる面白さを感じます。文字が方寸の中に生きてくると嬉しくなり、心に伝わってくるものがあります。

一ミリの何分の一で、がらりと趣の変わる芸術に奥深さを実感し、魅了されています。

試行錯誤を繰り返しながら、この芸術の美を追求しているところです。

柴田由美子(青裳)

～願いましては～ 世界びっくりそろばん展 Part2　終了!!

平成18年10月14日(土)～11月19日(日)

来館者の声をちょっとだけご紹介。「これまでのそろばんのイメージが変わりました。」「良い点は、そろばんで計算できた事」「またやって下さい。ぜひ!!」

期間中の来館者は1,317人でした。ご来館ありがとうございました。

独り言

昔に比べると現代はとても便利になりました。でも、その裏で犠牲にしているものもある。特に大切な自然。これが壊れると全ての生態系に問題が生じます。山を開発すれば樹木の根はもろくなり土砂災害などがおこり、腹を空かせた動物は民家を襲う。そうした事は全て人間が起こし、勝手に被害者になり、勝手に騒いでいる。便利なのもいいが、環境保護と云う事を真剣に考えた方がいいのでは。

新理事に千々和富平さん

昨年10月の藤本隆雄理事の死去に伴い、その後任に、木屋瀬老人クラブ連合会会長の千々和富平さんが理事に就任しました。郷土史料館運営部会に所属します。

木屋瀬宿記念館の利用状況

平成18年1月～平成18年12月までの利用者数

	みちの郷土史料館	こやのせ座など
1月	508(人)	490(人)
2月	690	806
3月	654	1,132
4月	358	603
5月	713	1,509
6月	666	1,159
7月	946	729
8月	1,236	1,465
9月	712	1,199
10月	900	1,624
11月	1,171	1,747
12月	257	719
合　計	8,811	13,182

●皆様のご来館を心からお待ちしております。

●今後も、楽しく面白い企画を予定しております。

シリーズ　筑前木屋瀬宿

第九回　神仏めぐり　恵毘須神社

木屋頼に永くお住まいの方でも、恵毘須神社の場所は御存知ない方が多いかもしれませんが、実は須賀神社の境内に鎮座されているのです。須賀神社本殿に向かって右側、参籠殿の横に「恵毘須社」の額が掛かった鳥居があり、その奥に祀られています。

大正十五年に発行された「木屋瀬町誌」に拠ると、(高倉順一郎氏宅跡)と(消防機具格納庫の所)二ケ所に祀ってあったと記されていますが、現在の場所は新町の山田新聞屋さんの前方と、本町の広さん宅の所に当たります。現在の恵毘須神社は明治四十年頃から準備され昭和二年に建立された事が社(やしろ)に刻まれています。又、鳥居は昭和五年に奉納されています。

えびす様・事代主命(ことしろぬしのみこと)は、七福神の一つで、風折烏帽子(かざおりえぼし)をかぶり、大きな鯛を抱え釣り竿を肩にかけた、如何にも福を招きそうな福相の神様です。鯛と釣り竿を持った姿は「釣りして網せず」ということで、暴利をむさぼらぬ清廉さを象徴しているといわれ、やがて商売繁昌の福神として信仰を集めたものです。

江戸期の長崎街道沿いでは豊漁と商売繁昌の神として、恵毘須信仰が盛んで、筑前六宿の山家、内野宿には今も当時のままの石像が有ります。特に盛んな佐賀市内には、三百二十体以上の石像が残り観光に活かそうとする動きがあるようです。

木屋瀬の恵毘須様は、大人が集まる恵毘須の御座と子供えびすの二つがあります。大人の恵毘須は現在毎年十二月三日に参籠殿で早暁に御座が開かれています。当元は木屋瀬商工連盟の会長が勤めるのが慣わしで祝いの膳の献立も、お供えの品々も、御座の進行の方法等事細かく決まりがあります。

参籠殿の左横にある恵毘須神社

昔は講を組み町内毎に各家で御座が開かれ交代で当元を勤めていました。当元は祭りの前夜に紋付袴で講員に御座の案内をして、祭りの朝は早朝お宮に詣で旗や竹笹を家の前に張り、紋付袴の正装で講員を迎え白扇を持ち下座に控え酒宴を開きます。

酒宴の進行は、一番手、二番手、三番手の拍手で進めるのが木屋瀬の伝統です。

今でも恵毘須の日には、床の間に恵毘須さんの掛軸を飾り、生鮒や凍大根、生酢、サザエ、鯛、小豆飯などの恵比須料理を供えお祝いされている家があります。

子供えびすは、現在十二月三日に近い土曜日と日曜日に行っています。小学校四年生の男子を頭(かしら)と呼び、頭が主役のえびす祭りです。笹山笠を作り紅白の幕を張りその幕にその年の頭の名前を書き町内を引き廻しします。その後、社殿でお祓いを受け神具や旗指物を持って、(泊まれ、泊まれ旅の客……)と宿場時代からの名残の唄を唄いながら、お神輿の町内巡幸におお供するのです。翌日の夕方には御座が開かれます。献立は恵比須料理です。子供えびすは、江戸時代木屋瀬の商人達が子供の地域若衆の仲間入りの儀式として始めたものと伝えられ、一週間位前から神社に籠もり、寒念仏の行事も行われていたと古老は書き残し、神仏習合の形を残す祭りでもあったようです。木屋瀬の子供えびすは全国的にも大変珍しい行事で無形文化財として価値ある木屋瀬の貴重な財産です。

神前に生鮒供え恵比須講
宿場町恵比須太鼓の響きけり

本町　野口靖彦

第六回　《木屋瀬いろは歌留多》大会
参加者の顔は真剣そのものでした

今年の入賞者(敬称略)

小学生の部
優勝　末松花咲(横代小三年)　準優勝　大原萌々(星ヶ丘小四年)
三位　尾中　葵(木屋瀬小四年)　浦野由紀(木屋瀬小六年)

一般の部
優勝　末松直子　準優勝　尾中美穂
三位　萩岩睦美　松下恵美

「こやのせ座」正月の恒例行事として回を重ねる毎に盛んとなり　対外にも文化的評価の高い《木屋瀬いろは歌留多》大会ですが　其も《木屋瀬いろは歌留多》とは〔岩井屋不彫さん〕が木屋瀬ならではの歴史風物や伝統・伝承などを多彩に織込み考案されたもので　療養中に孫〔岩井屋当主・岩尾二郎氏〕に宛て送られた絵葉書が原型です。

この木屋瀬のイロハを学ぶ事の出来る貴重な絵葉書を　現岩井屋当主・岩尾二郎氏の協力のもと〔こやのせ座運営部会〕で実際に歌留多として限定製作させて戴き　正式名称を〔岩井屋不彫さん〕の《木屋瀬いろは歌留多》と名付け　ひろく多くの方が接し学ぶ事により培われ育まれるであろう「郷土愛」が　"未来に向けての町づくり"に繋がる事を願い・信じ・始めたのが本大会の起こりです。

そこで　第六回を迎えた本大会の隆盛と今後の発展性の大なるを身をもって感じるにつき　此処に改めまして木屋瀬の伝統文化の継承に生涯を尽されし　今日ある「町づくり」の礎を築かれた〔岩井屋不彫さん〕の遺功に心より敬意と謝意を覚える次第です。

併せ　本大会を支える〔こやのせ座ボランティア〕方々のご協力に厚く感謝しお礼を申し上げます。有難い御座いました。

熱気ムンムンの会場

取った！やったぁ～

尚〔こやのせ座運営部会〕では木屋瀬住民による自主企画・自主運営をモットーとして本年も活動を展開していく所存でございますれば　より多くの皆様にご参画戴きたく　常時〔こやのせ座ボランティア〕の募集を行っておりますので　ご協力の程　何卒宜しくお願い申し上げまして報告ならびに年頭の挨拶と致します。

※〔こやのせ座ボランティア〕募集のお問合せは事務局迄

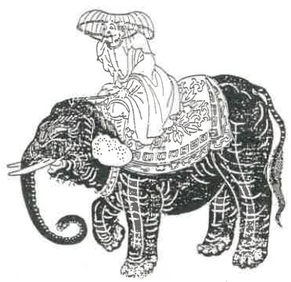
「木屋瀬に来た享保の象」

「史跡短見」も一巡りしたので、木屋瀬で一泊した江戸時代の「象」で終りにしたい。

享保13(一七二八)年巨大好みの八代将軍吉宗の所望で牡牝二頭の象が長崎に上陸した。四歳の牝は急ぐに衰弱して死んだが、七歳の牡は歩行訓練の末、翌年三月江戸までの陸路三百五十四里を先ず「長崎路」から始めるのである。長さ3m、高さ1・6m、牙の長さ0・42m、鼻は1・05mと江戸への「報告書」にある小象だが、翌年の出発時は一回り大きくなり、三月二十一日木屋瀬に来るのである。安南人象使い二名、日本人見習象使い二名を含み14名。各藩・宿場に触(ふ)れが出る。

※「飼料用意の品」
一、新藁―二百斤(小屋に敷く)
一、笹葉―百五十斤
一、草―百斤(一斤=640g)
一、大唐米(たいとうまい)―八升、内四升は粥
一、饅頭―あんなし80、あんいり30
一、橙(だいだい)―50(病気の時)
一、九年母(くねんぼ)―(ミカン)30

※船渡しは馬五疋程の舟。六、七寸の角木を水平に置き、その上に土を薄く敷く。陸地より船に乗せるときも角木、土俵で道を造り、舟と陸を一面にする。



※宿泊場所は二疋立ての厩(うまや)。中仕きりの板を外し、土間を平らにする。既なき時は、広さ六畳の丈夫な象小屋を用意。

※小屋の入口の高さ2・7m。付添いの者が小屋内で寝られるよう。見物人が騒がしいと象が驚く。夜分人が近づかぬよう注意。

三月十三日朝もやの中。これから74日歩かねばとは、象は知らない。翌十四日は八里を歩いて大村である。好物の唐芋を食べ象はグッスリと眠る。その夜、地震(じしん)きのような轟音(ごうおん)に皆飛び起きたが、象使いは平気で眠っている。象はよくオナラをする。

三月二十一日飯塚を立つ。木屋瀬までは大小の川が多い。人間は川船だが浅いとき象は水を切って渡る。が、長崎路一番の大河遠賀川は、長さ12m、巾2・5mの馬舟二艘を角材でつなぎ、畳を敷き土を載せ、綱を対岸に渡して舟渡しが始まる。象が一歩踏み出し、舟がグラリと揺れ、足を引く。寒い日だったが人足が川に入り舟を抑え、今度はうまく乗り、対岸から綱を引き成功する。木屋瀬泊りである。夜は冬が戻ったように冷え込み、寒がる象に心配したが、その時運ばれたのが「燃える石」で、急速に温度も上り一行は安堵する。享保の頃には焚石(たきいし・福岡藩の呼称)を採掘して生活の一助にしていた。

三月二十二日木屋瀬を立つ。

「木屋瀬に白象」とよく言うが誤りである。四月二十六日京都に入り、二十八日御所での天皇への拝謁である。

象が水を吸い込み体の両側に吹き付けると、象使いが藁でこする。テカテカ光るように油が擦(す)り込まれ、灰色の顔に白粉が塗られた。公卿など男も化粧していた時代である。そして「広南(かんなん)」従四位白象」に叙せられて、初めて「天覧」が実現したのである。そして長く江戸に居て、二十一歳で死んでいる。

だから、身体全体が白い白象ではないのである。

木屋瀬みちの郷土史料保存会
会長　水上　裕

わたしの昔話

晴々しい淑気

木屋瀬は古代より、神仏有縁の地であり、神仏に御奉仕する諸々の祭事より発祥した民間行事が豊富である。その中に、海腹川脊(ウミハラカワセ)と呼ばれる神事がある。これは魚を神前に御供えする場合、海の魚は魚の腹を神の方に向け川の魚は魚の脊を神の方に向けて御供えするのである。

木屋瀬の人々は、この縁起の良い神事を生活の中に御受けし、御客に対してもこれに習っている。

又一番おめでたいお産の場合は、海腹川脊を産腹交世と御受けして、お産がすむと産褥を替え、これまで南枕であった床を東枕に寝替え、つまり産腹をかわすのである。神仏に出産の喜びを御告げして深謝し、皆様の御祝詞を御受けする。

屠蘇は若さにあやかるため、最年少の人より年上の人へと酌む。

七草は、トートの鳥と日本の鳥が渡らぬ内に七草はやそう、七草たたこう、と唱えながら七草を刻んで、七草粥をつくる。

小豆雑煮は、十一日神仏に供える。

穂垂れ菜は、大根を葉つきのままゆでる。三方に上げる。葉を穂を垂らしているようにして神前に供える。

ドンド焼は、正月に用いた御飾り等の燃える火に、御餅を炙(アブ)って食す。

こうした行事が、多く守り継がれているが全て家族の安全と幸福を神や仏にお願いする心の、強い支えである。

満ち足りし　顔ばかりなる　初鏡
餅花に　酔いて帰るが　恥ずかしく

柴田豊廣遺稿集より

みんなすごく逞しく　なったよなぁ～!!

木屋瀬の師走の風物詩、子供えびす祭りが須賀神社にて16名の児童により行われました。昔は数えの11歳、現在では小学4年生の男子を頭(かしら)と呼びお祝いします。

初日、2日目と師走らしい寒い天候の中、16名の児童は2週間にも及ぶ練習の成果を発揮しようと、元気いっぱいに山笠を曳き、社宝を持って御神幸行列と町内を回りました。2日目、山笠を曳いた後、祝い膳(江戸時代大名に振舞われたもの)につきました。祝い膳のとき子供たちに将来の夢を発表してもらい、保護者の笑い声とともに滞りなく2日間の行事を終える事が出来ました。

裃を着て元気に走る頭(かしら)の子供達

今回、子供たちがこの行事を経験した事で伝統文化に関心を持つと同時に、お世話になった方々への感謝の気持ちや、みんなで励ましあいやり遂げるという仲間の大切さを学んだことと思います。最後になりますが、準備の段階から山笠解体までご協力いただいた方、ご祝儀を頂いた方、多くの方々に保護者を代表してお礼申し上げます。

世話人　宮近和則